



松田 昇 議員  
(花巻クラブ)

## 市内経済の状況の把握は サービス業の伸長が顕著

【Q】現状の日本経済は、現政権への期待感もあり、株高や都市部での地価動向の基準地点の半数が上昇となっているが、いまだ地方経済には波及していない。市内経済や産業構造をどのように把握しているか伺う。

【市長】「所得推計」および「経済センサス」の直近データを産業別にみると、サービス業、製造業、卸・小売業を中心とした産業構造である。特徴的には、医療・福祉、教育等の分野を中心としたサービス業の伸長が顕著である。事業所数が全体的に減少傾向にある中、運輸業、サービス業は増加傾向だが、小売業の減少が著しい。従業者数は、サービス業の比重が高まっている。市内全体の純生産動向は、平成11、12年をピークに減少傾向が続いている。

## 集客への取り組みは

【Q】本市は、東北有数の温泉郷、宮沢賢治記念館など多くの観光資源に恵まれているが、近年、集客力の低下が見受けられる。集客のためのイベントづくりについて伺う。

【市長】年間を通じて本市を発信する意味合いからも、観光



集客の期待が高い宮沢賢治記念館(リニューアル工事に伴い4月下旬まで休館)

客の多い時期、少ない時期といったタイミングをしっかりとらえることを重要視して取り組んでいる。月別では8、9月が30万人前後で最も多く、冬場の観光誘客が大きな課題。2、3月におけるイベントが有効と考えており、観光協会をはじめとする関係団体や、現在進めている「大学生による観光資源の検証」においてもテーマとして掲げながら、新たな事業の掘り起こしに努めていきたい。

【そのほかの質問】行政評価について、企業立地について



阿部 一男 議員  
(平和環境社民クラブ)

## 総合花巻病院移転への対応は 老朽化が進み移転整備を検討

【Q】①本市は、11月に立地適正化計画策定に向けた都市再構築方針を示したが、総合花巻病院の移転整備について、市としての対応を伺う。

②児童発達支援センター「イーハトーブ養育センター」の移転に伴い、機能訓練などをどう充実させるか伺う。

【市長】①総合花巻病院は、本市の地域医療を支える重要な役割を担っており、花巻高等看護専門学校を併設するなど重要な施設と認識している。市としては、市の中心部において、これまでと同様の役割を担っていただく必要があると考えており、連携を密にして必要な支援を行っていく。

②イーハトーブ養育センターについては、関係機関や関係者のご意見を伺いながら進めていくが、当該施設は、障がい児・障がい者への支援の場として中心的役割を担う必要があると認識しており、さらなる機能強化を検討する。

## 原木供給体制は

【Q】①市内の原木供給体制の準備は進んでいるか伺う。

②原木伐採後の再造林計画の見通しを伺う。



ボランティアによる森林整備

【市長】①北上プライウッド株式会社への供給は、平成26年8月20日に岩手県森林組合木材安定供給協議会が設立され、今後は集荷選別するストックポイント整備や県内各森林組合による樹種別目標数量の協定を結ぶと伺っている。また、花巻バイオマスイナジーへの供給は、今後協議会が設置される予定と伺っている。

②花巻市森林整備計画に掲げる森林整備の基本的な考え方やゾーニング等を踏まえ、長期的視点で、森林所有者に適切な植林や育樹の重要性を周知し、健全な森林の育成と林業の推進を図る。

【そのほかの質問】農業問題について



藤井 英子 議員  
(花巻クラブ)

## 複合施設基本計画の見直しは こどもセンターを子育て窓口

【Q】今回のこどもの城基本計画の見直しは、子ども子育てに関する「ワンストップサービス」の方向性から外れ、それぞれの施設の一体感が失われるように感じるが、「(仮称)こどもの城」における子育てに関する総合的支援センターとしての位置づけはどうなったのか伺う。

【市長】子育て世代にとって、子どもに関する総合相談窓口機能の必要性は認識している。計画案の見直しに当たっては、こどもセンターを子育て相談窓口として位置づけ、利用者のニーズに合わせた情報提供をするとともに、相談に対応し必要な機関への適切な接続を図り支援する。そのため、各専門機関との定期的な情報共有の話し合いを開催するなど、連携を強化するためのネットワークを早急に構築する。

## 清光学園と市の連携

【Q】全国的に児童虐待やDVの相談件数が増加傾向にあり、社会的養護は重要性を増している。児童養護施設「清光学園」との連携充実の必要性を伺う。



児童養護施設「清光学園」(石鳥谷町北寺林)

【市長】市は、児童福祉法第6条の3第3項に基づき、保護者の疾病その他の理由により家庭において養育を受けることが一時的困難になった児童について、児童養護施設その他の施設に入所させ、必要な保護を行う「子育て短期支援事業」を清光学園に委託している。入所している児童生徒は、細やかな配慮が必要であり、関係機関等と情報を共有している。子どもたちの悩みや不安へのサポート体制の整備を進め、今後も連携していくことが重要と認識している。

【そのほかの質問】大迫中学校の改築について、地域づくりの仕組みの今後のあり方について



菅原 ゆかり 議員

## 「赤ちゃんの駅」設置の考えは 市街地の活性化にも有効

【Q】子育て環境の充実のひとつとして、子どもを連れて出かける際、おむつ替えや授乳のために気軽に利用できる「赤ちゃんの駅」を設置する考えはないか。フラッグ等の表示をし、子育てサポートができないか伺う。

【市長】乳幼児を抱える保護者が安心して外出ができる環境が整っていくことは、子育て環境の充実はもとより、外出機会が増えることにより市街地の活性化においても有効であると考ええる。おむつ替えができる場所の一覧やマップ等の作成については、公共施設をはじめ、市内の店舗、企業などでの整備状況を確認し、ホームページや公共施設、医療機関および子育て関連施設に配置するよう努める。

## 認知症の早期発見を

【Q】認知症対策は、症状が悪化してから医療機関を受診する事後対応が中心であったが、早期発見のためには、異変にいち早く気づくことが大切と考える。本市における認知症の早期発見の取り組みを伺う。

【市長】町内会や自治公民館等の地域の方々、小・中・高等学



赤ちゃんの駅(北上市内)

校の児童生徒を対象に、認知症サポートの養成講座や認知症セミナーを開催している。講師役として指導を行う認知症キャラバン・メイトの研修会を実施し、情報共有や技術の向上のためのスキルアップを図り、市民の方々がより認知症を理解できるように努めている。また、早い段階で自己診断により予防や治療につなげていくための方策について検討しているほか、認知症の人やその家族への専門的相談支援や関係機関との連絡調整を行う専門員の配置等についても検討している。